京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十六錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●我輩の新年(四)

温突住人

河幡通りの方へブラ〳〵と散歩した、而し始め家を出た時ほどに寒くないので茲に一眞理を發見した。

空腹を以て寒さを制する事は到底不可能であるが滿腹であればある程度まで之れを征服する事が出來ると云ふ事だ之の新發見が果して世の俗人共に何程の信用を博し得るかは未だ疑問であるが兎に角、朝來の大疑問に明解なる解決を與へ得たことだけは吾輩の大に滿足する所である。

中谷の一繪屋の店先きにヨボ衆が群集つて居る、而してそれの多くが洋劍を佩たヨボの軍人だ、近寄つて見ると清軍革命戰爭の繪が三枚ばかり貼り付けてあるのだ、こんな錦繪は水標橋の時計屋にも貼つて有るが其處も亦朝は早くからヨボ衆が立ち替り入り替り之れを眺めては頻りに何か呟いて居る。

吾輩は之れを見て不圖二三日前の萬朝の記載を思ひ出した、それは我が寺内總督閣下が清國革命軍を武力的を以てしても押し潰して仕舞ふべしと云ふ强硬な運動をなされたと云ふ事だ、讀んだ當座は不思議にも思つた、矛盾にも感じたのであつたが、今之の江戸繪を見て吾輩頗る總督閣下の明に服せざるを得ない、元來世の中の事は隨分案外至極の事が多いものだ、深いと思つて褌を捲つて流れに足を入れると案外に淺く面喰つて捲げた褌を下ろす事がある、總督閣下の武力干涉論も其根本の動機は矢張り之の錦繪から起つて居るかも知れないと思ふのだ。

なんかん考へながら溫突に歸つて來た半日出ずるも思ひ猶は伴ふ、か流石溫突は戀しい、障戸を開けると、ボッと溫い空氣が面を押し吾輩の香ひが心地芬として鼻を打つ、何とも云へない一種懷かしさが、胸に迫るを覺ゆる。

奥の方では大分新年をお目出度くして居るらしい、時々萬歲の叫聲さへ起つて居る。

汝等凡俗共國家を讃美せよ、無智にして且つ無識なる汝等に朝鮮だから云ふて特に過當な俸給を與へ、贅澤を爲さしめつゝあるは全く國家の恩惠と國民の無智の賜である。

●粉吹雪

▲△生

△此等をや是れ、異體の最負の引倒しとも稱ふべくや、座名は態と言はぬが花の浪波津で名だたる若手歌舞伎とやら、一座の十八番物は三國傳來九尾殤狐、那須野が原の殺生石で、七化けの後が大ケレンの宙乘は可しとして、其の宙乘りが縱橫何處から見ても、當然有るべき筈の九尾は愚か、唯一つの尻尾すらなきお里擬ひの綺麗な田舍娘一人、盛んに繪端書や叙で觀客にお世辭を振り撒くは、宙乘り見せ度いが精一杯の希望か、立派に輕業曲藝と云ふもの丶在る世に、然りとては餘り觀客を阿房にした惡い了見、筋に反した惡ていがうは止して貰ひ度しと不平滿々なるを、傍聞せる人の『デモ、彼れは彼の座の御得意です、屢々演りますんでね、彼れは私共の國の芝居です』と、辯護する語調の大阪には逆き中國筋『失禮ですが、貴所のお國はと訊ぬれば『ハイ、山口縣です』

△稍ともすれば捕り物の立廻りの合方に滿鐵れを使ひたがる、滿鮮巡業の歌舞伎役者に、衣裳の何のと望まんは大人氣なけれど、這れはこれはと許りに開いた口の閉らざりしは、隨市川の十八番勸進帳の辨慶が得意なりとか稱ふる雷子とやらんが辨慶の、黒色にらいしさんへを白拔きの梵字くづしは少々妙だわいと矓てあれば、裾袢の下は色も純白な莫大小の襯衣とズボン下、尤も節は結氷期に近き極月中旬。

▲獨逸・南阿に於て英に對しバルバドス島占領の目的を以て戰爭の準備中と

▲英國・鑛夫は最低限度給料主義確立の爲め來週の投票には全員罷業を決す

▲海牙・阿片會議委員會は其の決議を包有せる萬國阿片協約の起草を終ると

▲西藏・獨立問題に關しフルトン卿タイムス紙上に曰く達頼剌嘛をして依然

▲支配・權を有せしむるは英に利益多し淸と共同して該國を獨立せしめよと

新刊紹介

△大國民(新年號) には西園寺内閣の責任選擧法の改正(社説)政界變轉の機(大隈伯)帝國對淸政策の大秘密(國民黨某領袖の談)支那動亂の第三者の態度(高橋博士)大國民養成の方針(高田博士)支那問題の根本解決(中村博士)帝國海軍の情弊(片桐海軍主計大監)國民生活方法改良(神戸博士)物價騰貴の趨勢(鹽澤博士)東京市政紊亂の歷史等記事豐富再讀の價値あり(一部十錢東京芝今入町大國民社)

外事一束

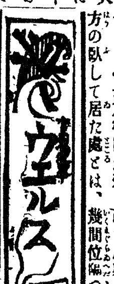
▲羅馬・ 法王廳コンスタンチン帝が基教を國教とせし紀念祭を本年中に開くと

▲伊土・ 講和談判に關する大體の條約既に決定 戰爭近く終局を告げんとし

▲列國・ 今や合意して伊土兩國の休戰に關し伊太利の意向を探りつゝありと

梁川庄八

第七十四回 小金井蘆洲演



五太夫何心なく一目見ると年齢は三十前後脊は低いが色淺黒く鼻筋通り口元締つて眼には何處となく、光があつて一見物々しき人物でございまする、五太夫扨ては怪しき奴ぢやわいと云はぬ許りの顔付にて才助をジロリと睨付けました、五太夫は更に才助に向ひ『其方は昨夜當家に一泊したと云ふが左様か 才『如何にも一宿したに相違ございませぬ 五『長左衛門が殺された座敷と其方の臥して居た處とは、幾間位隔つて居るか心得て居るだらうな 才『左様卅間位はございませう 五『母屋に悲鳴め擧つたのを其方は心付かずに寢て居つたか 才『左様何を云ふにも間合ひが十間もあり且つ雨戸や襖が二重にも三重にも閉切つてある故一向辨へませぬ、五『左様か其方の側に差置いてある腕の物は其方の指料か 才『左様でございます 五『大分長いものを挾して居るな 才『ハイ一尺九寸五分 五『默れ平民の指料は公儀に於て一尺七寸五分まで許してあるが夫れから以上二尺までは、寸及物と云つて刀に類して居るから理由なく指せぬものぞ 才『へい併し私の親方は寸及物を指す事をお上から許されて居ります、夫れ故護身用に此の寸及物を帶びて居ります、由緒書もこれにございます 五『香具師の由緒書などは一見致す必要はない、只其方の腰の物を一見するから是れへ出せ 才『畏りましたと何心なく松村五太夫の前に出しましたのを手に取擧て見ると、赤銅作りの立派な寸及物、鍔と云ひ目貫と云ひ金の掛つて居るものではないか、一點非の打ち所もない拵への腰の物『これは中々立派なものぢやと思ひながら中身を拔いて見ると一尺九寸五分と云ふ切詰でございまする、鍔元から切先まで玲瓏として鮮明ではあるが血曇が見ゑて居るのみならず、骨胝もある殊に二三ヶ所切込みが見ゑます、無論及物と云ふ物は動物を斬らなければ血曇と云ふ物はつかないものだ、五太夫は暫く是れを見て居りましたが容を正して聲嚴に 五『才助 才『へい 五『此刀には血曇り骨胝があるな 才『左様であるでございませう 五『宜しい甚だ怪しむ可き斑ぢや……持物を檢めろ』と云ふ下知に應じて手代『御用だ神妙にしろッ、ど腕首を押へたれば亦一人懷中に手を入れ才助の胴巻を引出して檢めて見ると膏藥賣にも似合はず、鎗替金百兩に甲金百兩外に三十兩の小出し都合二百卅兩の金子を所持して居ります、松村五太夫は之を見て昨夜の賊は此の才助に相違なしと見込を付け 五『こりや才助、其方は俗に所謂四文商ひをして居る膏藥賣斯やうな、大金を所持して居る道理はない、不審の廉あるに依て更めて陣屋に於て取調べる、者共繩打て 手『神妙にしろ』と直ちに繩を打て了ひました、才助は隨分腕利の人物でございますから、五人三人の手代位を叩伏せるのは何でもないが、夫れを素直に繩に掛つたと云ふのは、此人素より身に一點の曇りもないから、自ら氣に咎むる所がない且つ檢視の役人が下手人の分らぬ所から、此の疑念を掛けたのは尤もだと思ふのみならず、寧そ公の調べを受け申開きを立てゝ疑念を晴らし晴天白日の身となつて庄八の行衛を尋ぬるに如ず、斯う思つたから尋常に繩に掛つたのですけれども當家の伜勇吉は見ず知らずの素の他人で十兩の金子まで立替へて危き所を助けて呉れた程の人物ゆゑ、遺趣遺恨もなき我父、を殺さうとは何うしても何うしても信ずることが出來ませぬから、松村五太夫に向ひ 勇『恐れながら申上ます、此お方になか〳〵何の怨みもなき手前の親父を殺すやうな御方ではございませぬ…… 五『默れ上には夫れ〳〵見込があつて召捕るのぢや、況して其方の伜を召捕つて遣はすに、左様な御方ではないとは何事だ此痴れ者め』と叱り附けました、親戚の者も亦勇吉の袖を引て『そんな事を云ふな詰らねへ話だ汝まで御叱りを蒙るではないか御上には、又御上の御目鑑があるから何事も御上の思召通りに任せろ』と差止める途端に才助が勇吉の顔を見返り 才『勇吉殿御身が我心に蟠りのない事を察して、只今の一言難有とう存じます、軈て赦免の時更めて御目に掛ろう』と其儘引立てられて遂に才助は陣屋に護送されました、



東京電報

●英帝印度出發

英國皇帝陛下には十日カルカッタ御出發ボンベイに向はる

●佛國外相辭職

佛國外務大臣は首相と意見衝突の結果辭職せりとの公報あり

●紐育大火と損害

十日紐育に大火ありエクイテーブル生命保險會社燒失し損害四百萬圓死者十名に及べり

●延期と革軍

革命軍は休戰期限を一月十五日迄延期し袁世凱の上海に來らん事を望み居れり

●川島司令官

在漢口川島司令官電に曰く當地附近は兩軍の兵力對峙する事を以て四圍の狀況[illegible]外國租界の防衛の爲め各國の兵力を以て充分に防備しつゝあり[illegible]

●湖南兵の北上

在漢口 湖南兵[illegible]は十日下江の豫定なり

北京特電

●再び媾和使派遣

袁世凱は唐紹儀を再び媾和使として上海に派遣し和議の衝に當らしめんとの事なり

●駐清露公使交迭

駐清露國公使[illegible]近日着任の筈なり

韓報

●總督機密費削減

朝鮮總督の機密費は本年度までは統監時代の其儘一ヶ年二十萬圓なるも寺内總督は之れを減額し明年度より五萬圓となすべしと云ふ

●各道徴税成績

四十四年度十二月末日現在内國税及驛屯賦の收入額を聞くに内國税の同年度調定額七百八十八萬二千○六十七圓にして[illegible]十三圓にして差引收入未濟額十七萬二千六百十九圓なりと

●土地調査進捗

土地調査局の事業は既定の如く漸次進行しつゝあるが昨今同局各課長及書記官等は從來の調査測量地方に於て一段落を告げたるを以て新たに着手すべき地方に向て豫じめ下調査をなすの必要あるを以て部署を定めて各地に出張する次第なりと云ふ

●鑛床調査終了地

昨年七月より着手せる鑛床調査は川崎中村の兩技師に於て夫々分擔し調査したる結果非常に進捗し既に終了したる地方は平安北道にては昌城、朔州、价川、泰川、雲山、寧邊の各郡、平安南道にては順安、平壤、江西、[illegible]の各郡、黃海道にては黃州、松禾、長淵、海州の各郡、咸鏡南道にては永興、高原、安邊、元山、德原、文川の各郡にして各地方の鑛床狀況を調査し目下調査書編成中にして不日公表さるべしと云ふ

●教育事業

京畿道にては明年度の教育事業として先づ私立學校を公立となすもの十八校にし一郡一校宛の公立普通學校の設立を要するが尚二三の公立普通學校を設くるべし且つ都會の地に於ては學校を增加するもの三四校あるにいたるやも知れずといふ

●官有財産坪數

總督府所管官有財産中土地建物は昨今全道に亘り調査中なるが京城の分は略ぼ終了を告げ其坪數は十八萬坪なりといふ

●總督邸の午餐會

寺内總督は十一日正午官邸に中樞院顧問及贊議副贊議等を招き新年宴を開き山縣總監始め兒玉、國分局長兒玉桑原兩秘書官等參列せり

●總督實業家招待

寺内總督には[illegible]より同官邸に市原朝鮮銀行總裁佐川東拓總裁其他二十餘名を招き晩餐の饗應ある由

●赤十字旗と注意

先年海牙萬國會議に於て決議せし赤十字條約第二十七條趣旨に基き互に保護し濫りに掲揚すべからざるものとなし日本内地に於ては[illegible]於ては地方旅行中往々赤十字旗を掲揚する建造物あるは該條約の趣旨を知らざるに基因するもの多く其の標旗類似標旗の掲揚は官憲の注意を俟たず進んで廢止し他の標旗に變更されたきものなりと當局官憲は希望し居れり

●漁業許可の近況

昨年九月より十二月に至る漁業出願を處理したる免許及許可の分は免許に於て内地人三十八内地人の團体三十鮮人四百鮮人團体百十四日鮮人共同十四にして合体五百九十六件又許可漁業は内地人四十五鮮人十四合計五十九件なりと云ふ

●鐵道局の記者招宴

朝鮮鐵道局は十日午後六時より當地記者團を掬翠樓に招待し例年の如く新年宴會を開き種々の餘興等あり頗る盛會を極め主客歡を盡し散會したるは十時過なりし

●京城民團豫算編成

京城民團役所にては昨今來年度の豫算編成に就き多忙を極めつゝあるが二月中には完了を告げ三月開會の民會に提出する由

●東拓管理の苗圃

東拓會社の管理に係る京城東門外に於ける苗圃の苗木は櫟四百○三萬二千○八十五本アカシヤ二十四萬四千七百本山赤楊一萬六千五百本樅二百本桑四萬九千五百九十本合計四百三十四萬三千七百五十本にして今後は毎年二百八十萬本の樹苗を同苗圃より生産する豫定の由なるが一方に於ては黃海道に於ける林業の發達に伴ひ同地方に第二の苗圃を新設するにいたるやも知れずといふ

●京城輸移入重要品月別額

明治四十四年一月より十二月に至る京城貿易額は移輸入總額八百八十五萬五千百三十七圓移輸出總額十八萬一千百六十圓合計九百三萬六千二百九十七圓にして之れを前年度の貿易總額六百五十三萬八千九百六十九圓に比較するに二百四十九萬七千三百二十八圓の増加を示し居るが其の重要移輸入品の月別金額を表示すれば左の如し（金額圓位）

月	生金巾	晒金巾	日本木綿	綿布	果實及核子	麥粉	砂糖	清酒	煙草	紙類
一月	一三八、三〇〇	二、三四〇	四、〇三九	六、一七七	三、六六七	七、八九八	三、四九七	七、二八五	五〇、一〇三	一五、七〇五
二月	九四、六〇四	三、三九六	五、二〇六	二〇四	五、三九二	九、五一三	二、六九〇	六、四一四	一八、四七八	一三、九六八
三月	四六、三六〇	一五、六三六	六、一八八	七、四八〇	九、一四八	九、三一三	一四、一五七	一三、〇三六	八、六五五	一九、五八八
四月	二三、一八七	四、〇四〇	一九、七八八	八、四七四	一四、三〇四	九、七七六	一四、一一九	九、三九六	二七、八一八	一七、八〇六
五月	五六、二五六	一四、五一四	三一、三九三	九、五一六	九、五八〇	一一、五五五	一五、七六五	一七、六三八	九、三九三	二四、七二九
六月	八一、四四九	二、八七三	一〇、二九一	六、八五四	八、三七一	一四、六七六	二三、四六三	一〇、三七五	四五、九七九	五五、七三三
七月	一六、二五〇	一三九	七、〇四六	二、七三一	五、一七五	一三、八三五	一八、八四六	一〇、五九二	一五、三一七	二三、八二六
八月	一二七、四六八	六、二八九	八、〇〇六	九、四六八	三、二四一	一七、三八〇	一七、五五三	一〇、七〇三	五、九三六	三三、一五八
九月	一三〇、〇〇二	三六、九五五	二七、三六二	二〇、四三五	二、四一三	一三、八三六	一三、八七二	一六、三四八	一二、一八二	四二、三二八
十月	二〇四、三〇三	一八、二二七	二五、二四六	二六、〇六七	四、八二九	九、二四八	九、二四八	二三、一九四	一七、九四八	三〇、六一一
十一月	一九七、九三三	二一、九九九	二三、三四三	一四、八七七	一一、八二〇	一〇、七四九	一〇、七四九	二六、五一七	三二、一八〇	二四、三九〇
十二月	一七九、一四〇	一九、〇八三	一〇、三五四	一六、九三七	一三、三九六	二五、〇七〇	二五、〇七〇	四四、一二七	二六、三九八	二八、八四七
計	一、二九五、一四三	一三四、四七九	一六七、二六二	一二四、〇六〇	一二〇、三四三	一四五、六〇一	一九七、〇六〇	一九四、六四三	三二二、四八六	三二九、八八三

●狩獵法の改正に就て

……某狩獵家の談……

聞く處によれば當局は昨今狩獵法の改正に就て準備せりと果して然らば吾々は之に就き少しく望む處のものあり現行法によれば開始期を十月十五日と定めたるは内地に於ける獵法によりたるならんも土地を異にし從て氣候殊なる處より少しく早きに失するは事實にして現に雉子の如きは同期には未だ羽毛の代謝充分ならず又終期も七月迄存續せしむるの要なく三月限りにて充分なりと信ず鶴は絶体に禁獵せられあるも鶴に屬する種類には丹鳥、眞鶴、鍋鶴、袖黒鶴、紺羽鶴等種類少なからず内丹鳥は有益無益に拘はらず珍鳥として保護の必要を有するも其他は格別の事無かるべしと思料せらる尚は現行法に於ては禁獵鳥種を舉げあるも反之而狩獵し得べき鳥獸を列記するは一見否記臆上却て明瞭なりと云ふものなり終りに税制に就ても平均五圓の獵税を徴するは簡便には相違なきも苛酷に失するの譏を免れず狩獵を業とするものと遊獵者とは明かに區別するは中道を得たるものなるべく吾人は少くとも二級以上の區別等級を付することを希望して已まざるなり徴税成績に就ても却て本年度の徴收額一萬五千圓を倍加するやも計り難しと信ずる處少なからずと云々

朝鮮棉花會社の其後

日比谷平左衛門氏等の計畫に依る朝鮮棉花會社は嘗てより之れが創設の噂のみ高くして更に設立の運びにいたらず昨今に於ては殆んど立消ねの姿となり居るが今其の後の經過に就き記者の探聞するところに依れば最初東京側に於ける發起人等は設立に就て規模の大を期すべく五百萬圓の資本となし定欵等を作りて大坂、京都の有志等を勸誘して比較的多數の賛成者を得たるが其の後種々の事情起りて意の如く捗らず結局資本金を三百萬圓となし愈々設立の準備に着手する間もなく又々支障起り一頓坐を來したるが要するに之れが頓挫の原因は東京側に於ける發起人の多くは事業其のものゝ成否如何を問はず唯投機的に發起人となれる傾向あるに反して大阪側の發起人等は眞實事業其のものに重きを置き寧ろ東京側に於ける發起人等に對し其の設立の緩慢なるを詰り遂には叙上の如く東京側に於ける發起人等の意向を知りたるを以て爰に大阪側の發起人等は憤慨し曩きに拂込みたる證據金を取戻し今後は東京側に依らず同志を以て會社を創立し資本金の如きも五十萬圓位とし早晩設立の運びにいたるべく協議中の由なるが斯くては折角の計畫も物笑ひの種となるべければとて双方に於て調停を試み居るものもあれば或は元々通り一團となりて設立の準備に着手することゝなるべしとの事なるも果して成立するか否やは頗る疑問に屬せりといふ

各銀行會社營業成績（其六）

明治四十四年下半期

▽漢城銀行▽

…漢城銀行專務取締役談…

四十四年度後半期に於ける漢城銀行營業成績は預金總額九百三十萬圓引出總額八百二十萬圓貸出四百八十萬圓回收三百六十萬圓金餘受入二千四百萬圓金銀支拂二千三百八十萬圓利益金四萬圓余にして之れを同年前半期に比較すれば貸出に於て増加を示し預金に於て減少を來し居るが是れ前半期に於ては鮮人間の金融緩漫なりしに加へて公債の代り金下附され一層金融の緩漫を加へたる爲め鮮人等は資金の運用に苦み預金の外其の處分法を發見せざるに至り盛んに預金を爲したるも後半期に於ては内地の金融緊縮を加へ且つ土地の買入米穀買込費各種産業の織經濟動亂の結果延引所の中止等に依り各種資金の需要加はり其の緊縮の絶頂は十一月にして自然貸出の増加を誘致したるが如し又た更に之れを同年の同期に比較すれば預金貸出共に其の金額に於ては八割金銀の出入額に於ては倍額以上の増加を來し利益金に至りても亦六割以上の増加率を示し居るが其の同半期に至り斯くの如き増加を來せし所以のものは同期に至り從來三十萬圓の資金を三百萬圓に増資せしことも與つて力あれど其の主要原因は一般鮮人間に銀行利用方法の漸く了解せらるゝに至り盛んに之れが利用を試むるに至りたるに外ならざるが如し云々

●六日間の手形交換高

一月一日より六日に至る京城に於ける手形交換高は三千四百五十四枚四十六萬三千百八十一圓六十二錢にして此差額十萬四千三百三十九圓六十九錢なりと云ふ

●京城圖書館閲覽者

昨年十二月中に於ける京城圖書館の閲覽者は五百十七人職業別は無職百六十四官吏八四學生八〇商業七二會社員三二農業一六教員八店員八工業八軍人三記者二雜業八其他三十五にして貸出圖書數は千七百十一なりといふ

●朝鮮商業銀行總會

來る卅日午後一時より朝鮮商業銀行にては廣通館に於て株主總會を開くと

●漢湖農工銀行總會

漢湖農工銀行にては來る廿七日午後一時より廣通館に於て株主總會を開くべしと

●民團と行旅病者

昨年一月より十二月迄にいたる京城民團に於て取扱ひたる行旅病者の數は五十六人（内八人は前年度よりの繰越）にして内死亡者二十三名全治者二十三名全治歸國したるもの三名現在收容者七名なりと

●釜山の滿洲視察團

釜山商業會議所にては滿洲視察團を主催組織し東淸南滿鐵道沿線の實業狀態を視察せん計畫あり東淸南滿兩鐵道會社に向け滿東貸金割引に關し照會する所ありしに五割減を承諾の回答に接せしを以て目下朝鮮鐵道局に向け同樣の交渉をなしつゝありと而して同團視察豫定地は海路先づ浦鹽斯德港に向ひ東淸鐵道線にて哈爾賓寛城子を經南滿線に入り長春奉天營口大連旅順を視察し更に奉天より安東縣を經て歸鮮する者なりと

●各奏任官の昇級

十一日の官報を以て總督府書記官藤原正文氏外百五十名の書記官警視判檢事通信事務官各道事務官參與官技師通譯官及郡守等の昇級發表されたり

●檜垣道長官の特志

檜垣京畿道長官は舊臘濟生院養育料の孤兒一同に對し歳末進物として金十圓に白酒一打、鯛一尾鷄二羽栗五升を添へ寄贈したり

●愛國婦人會常務委員

愛國婦人會朝鮮本部にては會務上便宜の爲評議員中より順番に常務委員を置くの例なるが山縣本部長は道家千代子中山米子山口鉊子木島駒子三本ミキ子城イチ子檜垣トキ子の諸氏を第二回常務委員に囑托したりと

●濟生院現在收容者

昨年十二月現在京城濟生院養育部收容者は合計八十七人にして六歳以上十歳未滿三十九人十歳以上十五歳未滿三十二人十五歳以上二十歳未滿十二人廿歳以上四名なりと

●商品陳列館參觀者

總督府商品陳列館に於ける昨年十二月中の參觀人員は三千三百四十八人にして内内地人千三百十三人朝鮮人二千二十四人外國人十一人なりしといふ

●岡崎瓦斯專務大田行

岡崎日韓瓦斯電氣會社專務は大田電氣會社開業式へ列席の爲め九日同地に赴き一泊の後十日午後歸京す

●京畿道驪州郡の貯畜組合

京畿道驪州郡にては郡内各面に於て籾の貯畜組合を組織し不時の凶作等の場合相互救濟の途に備へたるが其組織等誠に完全にして一の模範たるに足るものなりとの事なり

●僻遠地に於ける施療

京畿道管内揚平郡は醫療の機關なく郡民疾病に罹るも其治療に途なきを苦み居るより道廳にては舊臘慈惠醫院醫員を同郡に出張せしめ一般患者二十八名及び同郡に於ける道路工事使役人夫負傷所に對し施療せしめたりと

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客（十日分） 乘車人員 七四六 降車人員 一二一八 乘車賃金 一五一二、一七〇

▲南大門驛荷扱高（十日分） 發送貨物 六二三 到着貨物 二八一 貨物賃金 三八二、七五〇

▲龍山驛乘降客（十日分） 乘車人員 二六一 降車人員 二一六 乘車賃金 二六二、九八〇

▲龍山驛荷扱高（十日分） 發送貨物 二 到着貨物 一四一 貨物賃金 二四、五〇〇

公人私人

▲辰市本丸（辯護士）昨十一日夜歸京

▲澤來太郎（代議士）昨夜入京永井辯護士方に

▲上野榮三郎（審美齋院取締役）巴城館に

▲奥山嘉一（技師）利川行

▲市原時雄（商船社員）平壤行

▲京城手形交換高▼

一月十一日 金高 一九二七、一一三、五〇〇 枚數 六九五

▲治外法權▼

行政整理政費節減と云ふ名の下に、半島裁判の三審制度を、二審制度に換へようと云ふ議が先頃中寺内總督以下一部當局者の間に在つたのは事實だ、當時本紙は治外法權撤去の關係及び半島民信服の必要上から三審制度存置の必要を論じた▲素々總督さて本紙の言ふ事位を知らぬこさはあるまい、併し知つて居ながら、尚且つ三審制度變更を思ひ立つたのはソコには夫れ、言ふに言はれぬ理由があつたからであらう▲今や總督對外の關係上、三審制存置に決したと聞く、安心するもの獨り在留外人のみならんやである▲別項雜報欄に記載の如く、寺内總督は例の英斷を以て、從來の機密費二十萬圓を五萬圓に削減するとの事だ、思ふに機密費は統監時代にこそ必要なりしなれ、今日となつては要らぬもの、之れに削減を加へたとて誰れも異存はなからう▲凡そ政道の要は、一利を興さんとするよりは、先以て一害を除くにありだ、我總督が時運とは云へ、輿論に聽いて、假令少しづゝでも昨非を改むるの心掛になつたのは結構の事だ▲移出税の撤廢、滊車賃の改正、言論の寛容、之等を手始めとして倘今後總督除害の手はドノ方面に向ふか▲昨紙掲載鐵道長官大屋の説明は長い許りで要領を得ぬところ彼の顏面の如し、只た一トつの取處は、彼れが前任者の古市をば、特に尊敬するところの古市博士と云つて、古市君など、言はぬは、舊師を對等扱ひにせぬ床しい心掛だ▲電通の牧山は、其記念號中艶福帳と云ふのがあつたために、先立ての東拓新築披露の宴で、美人連から包圍攻擊を受けた、ソレ以來彼れは美人の柳腰は良いが、柳眉の逆立は禁物だと云つて居るソウだ▲電通の記念號と云へば、其人物評中に三井の淺野は男が惚れる男だと書いてある、スルトの曰く、ナル程淺野は男の惚れそーな男で、女の惚れそーな男でない、電通の評蓋し當れりと云ふべしだと▲朝鮮商銀の遠山は、縞のモーニングで年始廻りをした、或人彼れになぜフロックコートを着ぬかと尋ねたら、彼れ答へて曰く、僕は舊臘禮服の一切をガッサイ白浪子にシテやられたと、スルト傍に在りし今村南部署長曰く、君の禮服は盜品として、已に本署に保管しあり、君直ちに下渡しの手續を爲せと▲着換の禮服を持たぬ遠山は早速南部署へ出掛けてフロックコートの下渡を受けた、ソシテ曰く、世間の奴等は已れに禮服が無いと思つて居ようが、持てよ來年の正月をと。

●鴨綠江の橋と氷（六）

天眞生

如何なる都合にや此邊の驛員舍宅は悉く驛舍に遠く七八丁より近きも五六丁を下らず、風當り日當りの加減よりか極めて便利惡く感せらるゝが如何の故にや、驛舍に近く線路に沿ふて造られたらんには滊車發着の都度幾分か家族が無聊は慰せらるべきに如何なる都合にやあらんか不審。山間、谷底に點在せる**民家の軒**毎に**旭日旗**を飜へせること前に同じ[illegible]古來人氣の險惡を以て聞ねたる地方にしあれば幾分か他地方の夫に比して意味ありげに覺ねられて嬉し、[illegible]日光を仰ぐ、順安、漁波、肅川、萬城を經て新安州に入る、內地人[illegible]有し日本人會の組織ありと嶺美驛に於て何某警視の乘込むあり、田中君の一行は光升機の噂にて持ち切る、雲田、古邑、定州、郭山、路下を過ぎ滊車宣川に入る毛裏の外套したる**一查公の御用提灯を携**へたるが**二等車室を物色**しつゝ『新義さんと云ふ方は』と全車室[illegible]行先、用件等の訊問するべしとて當の新橋氏は其偉大なる軀を撫しつゝ查公に導かれつゝ車外に出で何人かと盛んに久濶を叙すらし『ヤア歸りには寄れ』『ウム宜しい』…奥さん泣恐れ入りましだ『ハイ、何日も御壯健で』『達者な斗りでワハヽヽ』『南部（安東新報社長）[illegible]の體なり、闇を劈いて吼り渡る發車の令笛に從ふて列車は輕く東林に向ふ**田中氏一行**四人中に**內訌**を生じし如し、田中氏は安東縣直行を主張す理由は『新義州の新停車場は舊停車場より十數町の手前に移されたりと云へば人車の便を得るにも難儀なるべし』と云ひ他の新義州で下車を主張する人は『大丈夫だよ僕[illegible]新橋氏嘴を入れて曰く『大丈夫だよ』と云ふにある
貴許（僕）は新義州は初めてですか……ハア左樣です理由が薄弱ですな……[illegible]存じあるまいが安東驛設の主張者も田中さんも內心は新義州に降りたいのだ、と云ふのは**岩田旅館にはつ**と云ふ決して命令に違反せん女が居るのだから『ワッハッハッ』と田中君は苦笑するのみなりしが議は迎ひの者が來て居れば新義州に下車する然らざれば**安東縣**は『**すみれ**』へ乘り着けること、一決したり新橋氏の言當れり、田中氏僕に向つて曰く『貴許が安東縣に下車と定めたるは賢なるものだ』と賢か賢か賢は足下の賢なるに勝かずだ、此の間に東林、車輦館、南市、良策、枇峴、白馬にして月は起伏せる丘陵の上に出づ石下を過ぎて新義州に入る、**馬賊の如き勢して列車に侵入**したる荒彥の三人『總督府の**營林廠**からの田中さんは………**れ指圖でれ迎ひ**に參りました』と果して田中君は僕よりは賢なりき。嬉し相に『デは失敬します』とイッ〳〵として下車す。

●食道樂再建由來

▽アヽ有難の大旦那やな

多年天眞樓に在りて雨につけ風につけ月につけ雪につけ家鄕に遠くして愁思自ら湧くを禁する能はざる羈旅の客に侍べりて痒き所と云はず疼く所と云はず仰せのまゝに手を届かせ居たる迄は可けれど近頃にては大連にて暇へ上げた大手腕を餘りに無遠慮に發揮したる爲め遂に**天眞樓の家風に合**はずとありて**お暇**となつたるは二ケ月程も以前の事なりしが彼は既に夫れ以前彼の莞島事件の張本人**江藤恒策**に陰德を施してあるより之れに迫りて遂に此の手に依りて**宋秉畯子爵を金主**と仰き食道樂を再建するに至りたるなるが茲に江藤に氣の毒なるはたきよには**一歲違ひの兄さん**なるものあり同じく**天眞樓の風呂番**なりしがたきよが以上の計畫も多くは同人の指金に出でたるなりとぞ扨此男料理の方も多少心掛あれは必定食道樂のお帳場に座つて兄さんと云ふを笠に江藤の前でも態々『たきよ』と呼び付けて嬉しがることなるべしと

●ワン〳〵の病院

南米倉町の高臺に在る京城家畜醫院を訪ふた院主菊村聚氏曰く

夫れから結膜炎を起して眼瞼の周圍にヤニが出る之れが消化器系統を犯かし脳脊髓を犯かして遂に斃れて了ふのである然しコレとて初期なれば決して恐るゝに足らぬが手遅れすると危險である外に感冒性の急性胃腸カタールに罹り肺炎腸炎を起して斃れることも隨分ある猫の病氣は餘り多く診察いがサナダ蟲や疥癬等が多い雞は先づレウマチスか素嚢の食滯である外に家禽コレラと云ふのがあつて頗る猛烈なものであるが現在では治療法は殆んど無く專ら豫防法を講ずるに過ぎないよくフンツマリといふのがあるがアレハ水にヒマシ油を入れて呑ますれば大抵治る未だ當地には餘り家禽に趣味を有つた人が少ないらしい大きい動物では牛で氣候の急變が原因でカタール性肺炎が多い馬の病氣としては流行性感冒から來る胸疫と云ふのが恐ろしいッマリ肺炎で傳染性肋膜肺炎と云ふ外に年齡超過や其他の故障で廢馬になつて軍隊が拂下げたのを荷馬車等を挽かせるので老衰性心臟麻痺を起すことが多くある今日は何も珍らしいものがありませんが其の中珍奇な參考ともなるべきものがあつたら御知らせします云々（終）

子歲藝妓の氣焰

會員 井門鶴吉、淸水席權助 玉家伊達子、開進亭榮 淸華亭金五郎、とん子

開進亭の榮（上）

私氣焰なんて何だか知らないワ、だから子歲藝妓として特に話を書いて下さらうと云ふ思召なら私の半生を話すから其方にして頂戴後生ですからね、產は京橋區の宗十郎町本名は射越きよと申しますのよ、エー學校は鍋町學校でした、上安の辨當を二階から眼んだらうつて、マアお精通しいこと、併しァノ辨當屋は盛んなものですね一日に六千本から出すんですつてね、辨當屋でもアノ位に成れば結構よ自分所で使う米は自分所の田地から上つて來るんですものね、エ、食物に夢中に成るなつてマア憎らしい御自分で種を蒔いて置き作らサ、朝日新聞社の前の鳥屋の隣の八百屋エ、エ、其隣の路次の角に小さい新屋の在つたことを知つてるかつて覺ねてませんよ八百屋さんは知つてますけど、食物なら何でも覺ねてるつて、左樣ぢやないけどホヽヽ、、其新屋が何うかしたんですか、エ、新を賢つてたつて、マア憎らしい巖談云はずに廢うかしたんですか、其家が富本の版元でしたつて左樣でしたかねゝ何分の子供でしたから、十二歲の天長節から橫濱の靑木町の尾張家から丸子と名乘つて半玉で出まして十七の夏まで其所で稼いて居る內に岐阜縣の人で貴族院議員杉下太左衛門と云ふ方に落籍されましたの……法螺を吹くないつて、何てね口の利き如ですよ、他人の話、聞き作ら話半に突然『法螺を吹くない』つて貴許も隨分思ひ切つてイケ粗雜に出來上つてるよ、自分作ら時々左樣感じる事があるつてマア呆れ返つて終うよ、夫れは兎に角として決して法螺は吹きませんよ、落籍された後は岐阜市〇〇町に圍はれて居ましたが十九歲の四月事情あつてお暇を貰ひ日本橋數寄屋町の大和家から錦枝と名乘つて再勤つてね事になりました（つゝく）

●醉つては如件

▽前山組の殺人沙汰

九日午後十一時半頃本町四丁目前山組內に於て殺人未遂事件ありて事を秘密に附しある旨探知し長野佐藤岸の三刑事現場に出張取調べたるに加害者は兵庫縣神戶市明和通り一丁目當時若草町一丁目十八番戶居住前山組車夫池永留吉（三三）にして被害者は同組車夫花田正美（三〇）なるが犯罪の動機は九日午後五時より壽町三丁目元早瀨組主人早瀨乙次郎方に新年宴會あり前山組車夫一同も招かれ加被害者とも充分酩酊し愚にもつかぬことを二言三言爭論せしが其場は其儘事濟みとなり被害者は前山組に立ち歸りしに加害者は何思ひけん被害者宅に至り机に入れありし短刀を持ち出し前山組に至り貴樣を殺してやると不意に被害者花田の胸部に二ケ所斬り付け重傷を負せ殺害の目的を逐せず被害者は高井病院に入院せしめしが前山組にて秘密に付し居たること判明し目下取調中

●あのこゝな遊食漢が

▽煮ても燒ても直らぬ卅男

十日午後五時西小門外スタンダード石油會社々員木塚常藏より西大門分署に電話を以て只今强迫がましき言動をなし執務を妨害する者あり相當の處置を乞ふとの訴へあり即刻高宮巡查出張本人を分署に同行取調べたる處此者は原籍埼玉縣北足立郡玉宮村字㮈田當時住所不定の須田堅太郎（三二）とて曾て當地に於て巡查志願をなしたるも素行不良の爲め採用せられずと爲すこともなく諸所を徘徊し居たるが須田の叔父に當る長崎東洋日の出新聞社長飆島熊次郎と木塚とは舊友の間柄なるより世話を依賴し來たりしに木塚が世話をせざりしとて昨年十月二日に强迫がましきことを陳べ立てゝ金員及び冬洋服一着を貰ひ去りしが同日又々事務所に赴き到底就職の見込みたき故歸國旅費を調達し吳れとて動かぬにぞ木塚も詮方なく出でたる次第と判明したるが被害者の願ひによりあのこゝな遊食漢奴がと嚴重に將來を戒めて放還したり

●羽織大盡の正体

▽詐欺竊盜の不埒漢

紋付羽織を着流し紳士然として新町遊廓京城樓に元日早々より登樓し娼妓小光藤子を敵妓に身分不相應の遊興を爲し尙從前より大和新地福本樓にて佐近福島屋にて市子萬遊亭にて琴治桃山遊廓明月樓にて金五郎中の新地開盛樓にて葦大阪樓にて喜蝶等を敵妓とし何れも駄々羅大盡を極め込む者ありと探知し長野佐藤の三刑事は注意內偵中の處右は元大和商會職工たりし兵庫縣人當時住所不定池田修五（二〇）にして詐欺竊盜橫領罪の罪跡ある事發覺し目下取調中なり

●仁川英領事館の盜難

去八日午前四時頃仁川英國領事館のボーイ室へ一人の賊忍入り現金三十圓を竊取し逃走せんとせる際該室に就眠せし淸人ボーイが目を覺まし直ちに賊を追跡せんとせしに賊はボーイを目懸けて短銃二發を放ち其の隙を覗ひ一目散に逃走したる騷ぎに仁川署にては直ちに犯人搜查に着手し淸國人一名嫌疑者として引致し目下嚴重取調中

●自働電話破り

茨城縣多賀郡松岡村當時南大門外居住無職柴田吉次郎（三二）は京城郵便局前自働電話器を破壞し在中通話料金十四圓五十錢を竊取し南部署に捕はれ取調中

●龍山本願寺の御正忌

齋龍山元町本願寺にては十三日より十六日まで御正忌執行する由なり

●旅館組合新年宴

京城旅館組合にては十日午後六時より旭町三丁目開進亭に於て新年宴會を催し開會と同時に役員改選を行ひ取締を不知火旅館に副取締を九州旅館に評議員を浦尾山本天眞樓原金旭館巴城館に決し終つて宴に移り午後八時半閉會したり

●演藝だより

▲歌舞伎座 改成義團十二日の藝題は敎育劇『不幸の天罰執念の蛇』にて滝の場は電氣仕掛けに水遊を使用し一同車輪の働きをなす由
▲壽座 每夜好評を以て迎へられつゝある若島屋一座は觀客の好みにより今晚も『四國騷動貎化犬の仇討』を演ず
▲浪花館 三遊亭圓若一行にて連夜大入りを占めつゝあるが十二日には京龍藝妓の總見ありと
▲御成座 綠會今晚の藝題は『眞僞判明』二番目は舊劇『赤垣源藏德利別れ』

花柳界だより

▲江戶ッ兒會も次會は會費を三圓にするそふだ事實なれば江戶ッ兒の相場も二圓方下落した譯けですね―と大阪生れのある藝者が笑ふて居た▲松葉の時松は日本デンボーに出た自分の旦那筋の中に本町の源ちゃんの名が見ね無かつたのが不思議だと大層不思議そふに云ふて不思議がつて居る▲花月の太筆に意氣な厚司姿の情人のあつた事は廓雀も知らないだろふ知つて居るのはた筆と當人の僕だけだと、手放で惚けて居る人があつたが姓名だけは預かつて置ふ▲井門の鶴吉は勝手に情人を製造して惚けて居るがあれはお客に口説れぬ要心だそふな▲同樓の鶴香は近頃大層顏色が惡いがまさか食過ぎではあるまい兎も角要心をさつしやいませだ▲淸華の若龍は餘りからだが肥滿るのでこの頃センブリを飲んでくだしをかけて居る（△〇生）